

令和7年度 貝毒プランクトン出現状況（5月1日現在）

男鹿半島戸賀湾で貝毒の原因とされるプランクトン（渦鞭毛藻 *Dinophysis*属）の出現状況を調査しています（4月から8月にかけて計12回）。

今期3回目となる5月1日の調査では、その他の*Dinophysis*属として、*D. infundibula*と*D. rotundata*が出現しました。2回目以降、全層で*D. fortii*が警戒値である200細胞/Lを大きく超えて出現していますのでご注意ください。

調査月日	水深	水温 (°C)	貝毒プランクトン出現量 (細胞数/L)			下痢性貝毒検査 (イガイ)	
			<i>D. fortii</i>	<i>D. acuminata</i>	その他 <i>Dinophysis</i> 属	検体採取日	試験結果 (mgOA当量/kg)
①	4/9	5 m	10.1	98	14	未実施	
		10m	10.3	27	6		
		20m	10.4		3		
②	4/18	5 m	11	324	24		
		10m	10.9	330	15		
		20m	10.7	294	6		
③	5/1	5 m	12.1	510	24		
		10m	11.6	234	21		
		20m	11.2	351	12		
④		5 m					
		10m					
		20m					
⑤		5 m					
		10m					
		20m					
⑥		5 m					
		10m					
		20m					
⑦		5 m					
		10m					
		20m					
⑧		5 m					
		10m					
		20m					
⑨		5 m					
		10m					
		20m					
⑩		5 m					
		10m					
		20m					
⑪		5 m					
		10m					
		20m					
⑫		5 m					
		10m					
		20m					

* 貝毒プランクトンの警戒値は*Dinophysis fortii*については200細胞/L（海水1リットルあたり200細胞）以上とされています（安本 1993）

* 下痢性貝毒は、0.16mgOA当量/kgを超えると出荷自主規制するように定められています。